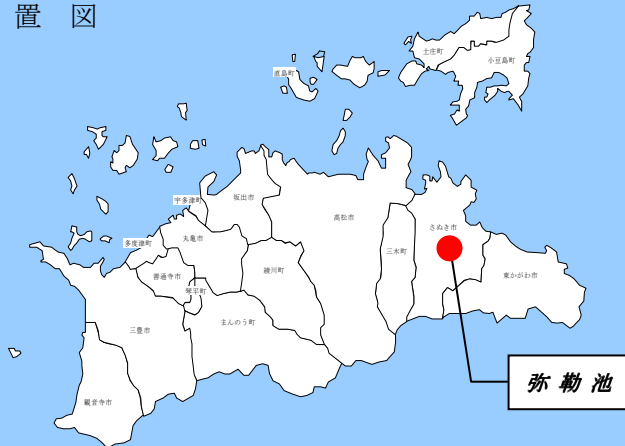


弥勒池（みろくいけ）

位置図



諸元

| | |
|------|---------------------|
| 貯水量 | 236 千m ³ |
| 満水面積 | 4.0 ha |
| 受益面積 | 56 ha |
| 堤高 | 16.8 m |
| 堤長 | 96 m |

弥勒池は、上池・中池・通池の3つの池の総称です（現存しているのは上池（現在の弥勒池）・中池のみ）。築造年代は不明ですが、付近一帯から多くの石仏が掘り出され、その中には弥勒菩薩もあったことから、「弥勒池」というありがたい名が付けられたようです。

その昔、水不足に悩まされていた西隣の羽鹿池掛かりの農家を救済するため、大庄屋“有馬右衛門三郎”が、文政8年（1825年）から10年をかけ、津田川上流から三石山を迂回する2,610mの導水路工事と上池の増築を行いました。ところが、完成した導水路は漏水が多く、1回り大きくなった上池は“器あれど盛る水なし”といわれる状態が20年間ほど続きました。これに憂慮した“軒原庄蔵（満濃池の隋道工事も手がけた土木技術者）”は安政2年（1855年）、三石山を最短距離で通過する石穴（トンネル）の工事を開始しました。手ノミー一つの時代に270mを掘り抜くという大工事でしたが、開始から3年目に無事開通し、上池は“水が盛る器”になったといわれています。

現在は、かんがい期までに大川ダムからの取水で上池を満水させ、その水の7割を増築時の慣行により羽鹿池へ7割、中池へ3割分水し、さぬき市中部に広がる56haの農地（羽鹿池掛かりを含む）をうるおしています。また、池周辺は「みろく自然公園」として整備され、自然豊かなレジャーゾーンとして多くの人々に親しまれています。



弥勒池



弥勒石穴